

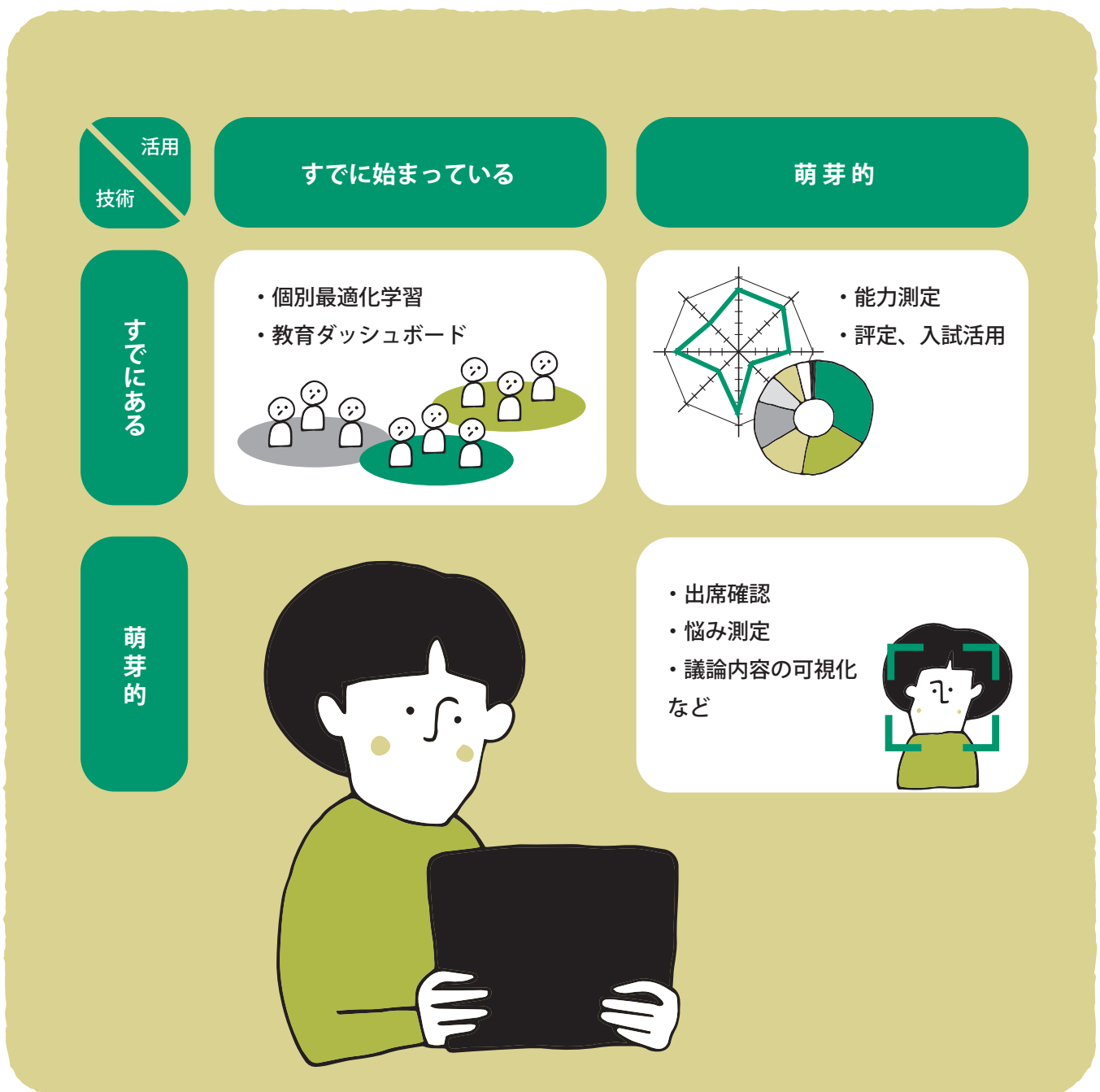


議論しよう！

どうなる！？未来の学校



現在、パソコンやタブレット端末などの機器や、
AI を使ったデータ分析などさまざまな技術が教育現場に導入されつつあります。
全国の学校では1人1台タブレット端末が配られて、コロナ禍にはオンライン授業が行われたり、
授業の資料や連絡事項をタブレット上で見られるようになったりと、
これまでアナログで行なわれていたことがデジタルで行われるようにもなりました。
これからはデジタルへの移行にとどまらず、児童・生徒一人ひとりに合った学習の提案や、
教育データの利活用など、教育にさまざまな形で技術を活用することが目指されています。



EdTech(教育 × テクノロジー)は、どこまで進んでいる？

もうすでにはじまっているのは、

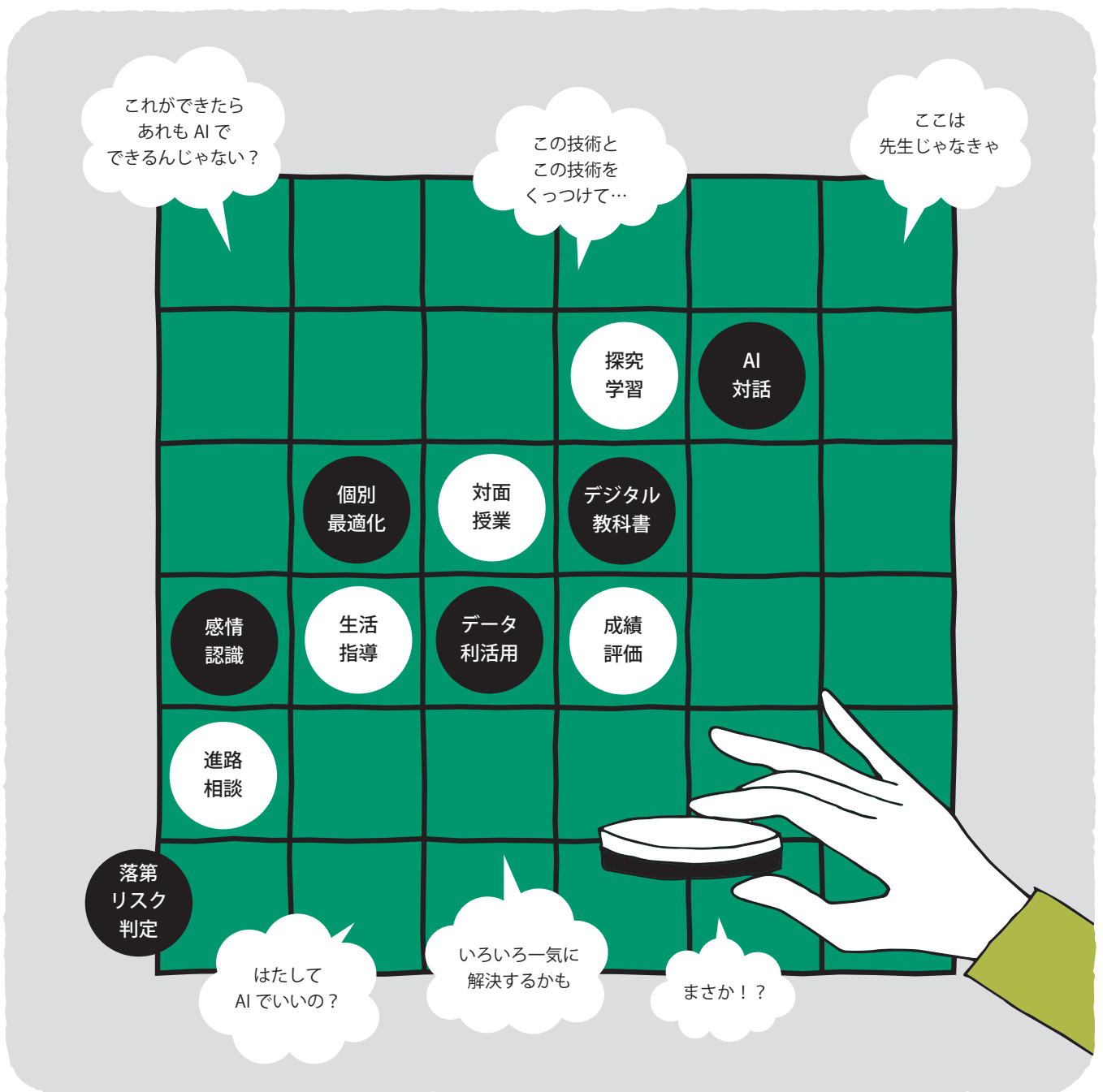
- ①ドリル問題と映像授業を個別対応的に出題・提示する個別最適学習。
- ②さまざまなシステムに散在しているデータを集約して可視化し、情報把握できる教育ダッシュボード。

技術はすでにあるけれども、活用はまだ萌芽的なのは、

- ③能力測定 EdTech による評価・入試活用。

技術も活用もまだ萌芽的なのは、

- ④顔認証・音声認識 EdTech による出席確認・感情・集中力・悩み測定、議論内容の可視化。



教育現場に「テクノロジー」が入るということ。

AI の技術そのものが、とてつもないスピードで進んでいます。

これからさらに、さまざまな技術の導入が考えられますが、

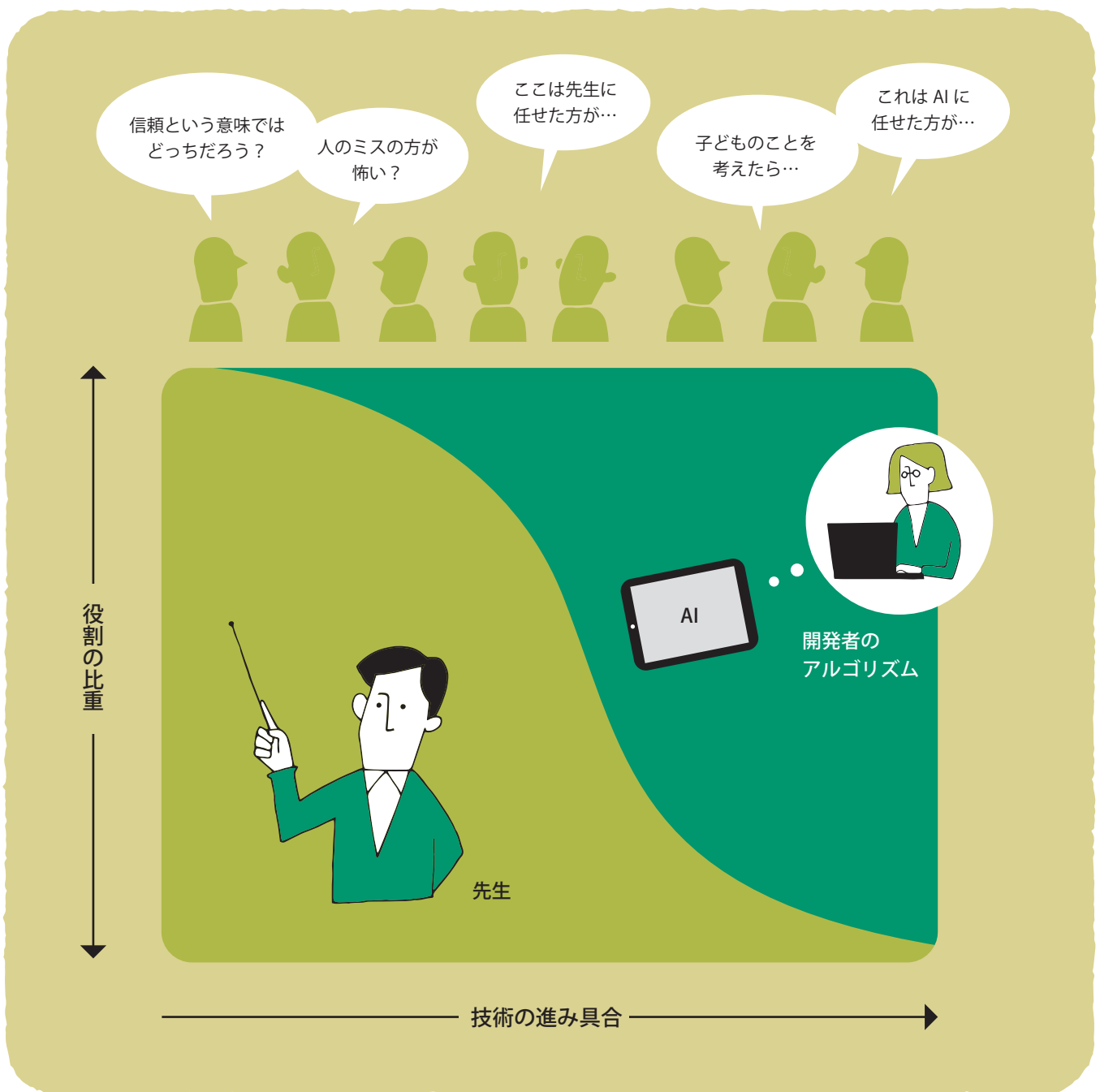
それらが徐々に教育の現場に入ってきて、オセロのようにそれに置き換わっていくと、

本来、先生のやるべきことも、知らず知らずのうちに無条件に AI 化されることも予想されます。

また一つ一つの技術が組み合わさったときに、予想もしなかった課題がでてきたり、

従来大切にされてきた、教育に関する責任の所在もあいまいになったり、

これからどんな影響が広がるか、期待と同時に、懸念もあります。



学校って何だろう？先生って何だろう？

教育現場にさまざまな技術が導入されることで、どんどん新しいことができるようになります。

今まで先生が行っていたことも、AI が代わりに行うことができるようになるのかもしれませんが。

でも、悩みごとや進路の相談相手が AI だったら・・・？

授業態度を生徒の身体の数値から AI が判定するとしたら・・・？？

先生が担ってきたことを技術に置き換えるとき、将来的にどのような課題が出てくるのでしょうか。

先生の代わりに AI が「やっていい」ことと、

先生の代わりに AI が「できてしまう」こととの違いはどこにあるのでしょうか。

企画・制作：八木 絵香、水町 衣里、若林 魁人 / 監修：加納 圭、後藤 崇志、村上 正行 / デザイン・イラスト：アトリエ・カプリス
2025 年 6 月版

本対話ツールは、JST/RISTEX「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」
「教育データ活用 EdTech（エドテック）の ELSI 対応方策の確立と RRI 実践」（代表者：加納圭）の協力を得て制作しました。